

一般財団法人
山鹿市地域振興公社

経 営 状 況 説 明 書

令和6年度の決算に関する書類

1 事業報告書

2 決算報告書

(1) 収支計算書

(2) 正味財産増減計算書

(3) 貸借対照表

3 財産目録

令和6年4月1日から令和7年3月31日

1 総括事項

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律に基づき設立認可された一般財団法人山鹿市地域振興公社の令和6年度事業実施にあたり、山鹿市の「公の施設」5施設の指定管理を引き続き受託し、市民サービスの向上および福祉の増進に努めるとともに、山鹿市の文化・観光・スポーツの振興を積極的に推進した。

また年間を通じて、山鹿市、山鹿市教育委員会、関係団体等と連携し、公益目的事業や自主事業等を展開するとともに、安心・安全で清潔な施設環境の提供に努め、施設利用者の増加と満足度の向上を図った。

指定管理受託施設のうち、文化施設および体育施設については、前年度同様、さまざまな催事や大会の開催などによる安定した利用が見られた。また、長くコロナ禍の影響からの回復が遅れていた観光施設についても、インバウンドを含む個人観光客が前年度に続き順調に増加し、併せて団体客の動向も活発化の傾向が見られた。

さらに、当公社の持続可能な組織づくりを推進するため、退職金規程の見直しや業務効率化への取り組み、職場環境整備に向けたハラスメント研修会なども行った。加えて、公社の将来に向けた取り組みとして注力している若手職員による企画事業についても、引き続き支援しながら組織の人材育成に努めた。

2 事業の内容

(1) 自主事業・公益目的事業

ア 文化振興・福祉向上事業

旅先案内人の会

(ア) やまがの魅力と歴史を紹介するため、年間を通じて観光案内を行うとともに、知識や技術の向上を図るため、県の観光ガイド連絡協議会研修会への参加や、自主的な研修会を実施するなど、山鹿を訪れる観光客の受け入れ態勢の充実を図った。

(イ) 山鹿市旅先案内人の会による土・日祝日の山鹿灯籠民芸館内での案内を年間を通じて実施し、国の伝統的工芸品・山鹿灯籠の魅力を多くの観光客に伝えた。また、山鹿灯籠民芸館の自主事業と連携し、灯籠紙の原料となる楮や和紙について学ぶための研修会等にも積極的に参加した。

八千代座

(ウ) 八千代座で、狂言・子ども歌舞伎教室を開催する「八千代座文化講座事業」を、本年度も公社事業として継続的に実施し、本市の文化振興と地域に根ざした舞台芸術の育成を図った。発表会は、狂言が3月22日（土）に実施。令和6年12月から指導にあたってきた鹿北小学校5年生が子ども歌舞伎発表会を3月12日（水）に実施した。

(エ) 八千代座のかつて映画館でもあったその歴史的役割を活かして、地域で失われた映画鑑賞の機会の提供を目的とする優秀映画鑑賞事業を平成20年（2008年）から継続実施。本年度は2月1日（土）に開催した。

(オ) 八千代座に観光DX（デジタルトランスフォーメーション）を導入することで見学サービスに新たな付加価値を与えると同時に、インバウンドを含んだ観光需要の回復に対応することを目的に、QRコード及びMRの活用、キャッシュレス決済の導入を図る「八千代座観光DX事業」の実施に向け、基礎資料収集とQRコードの試作を行った。

(カ) 市民が企画・希望する有料公演等（収益公演を除く）の開催をサポートすることで、公演による文化振興とその後の市民による自主公演開催の増加を図る「八千代座公演プロデュース事業」を、6月2日に「浪曲師港家小ゆき講演会」、7月28日に「オリンピックサッカーパブリックビューイング」、10月26日に「此处に琵琶ありコンサート」、12月22日に「年納め子ども公演」を行った。

(キ) 灯籠踊りに代表される伝統芸能や地域の食文化、八千代座の館内案内や廻り舞台等を活用しながら山鹿観光の商品開発につなぐ「観光商品プロデュース事業」として、8月15・16日に、灯籠まつり八千代座納涼公演を行った。

(ク) 八千代座を使用して市民が行う有料の式典類や公演等での技術的支援を行うことにより、市民が活用する際の質の向上と活用機会の増加を目的に、八千代座の説明案内や舞台運営の知見と技術を持つ職員を有料で派遣する事業を、灯籠まつり八千代座納涼公演で試験的な実施検証として行った。

さくら湯

(ケ) さくら湯の年中行事として定着した「菖蒲湯」「敬老湯」「ゆず湯」を実施したほか、「父の日」「母の日」の企画湯では次回無料入浴券の配布、「七夕湯」ではペア入浴者を対象に割引を行った。また、里山文化の再生を支援する「渋柿湯」を行ったほか、秋の街道浪漫時に、さくら湯の歴史や入浴マナーを学ぶ「子ども入浴教室」を実施し、参加者へ無料入浴券を配布した。

(コ) さくら湯において、市内小・中学校の長期休暇に合わせ実施している子ども入浴無料の「早起き朝湯」事業について、スタンプカードを発行し、入浴回数に応じて賞品贈呈を行いながら参加者の増加を図った。

(サ) さくら湯の山鹿温泉元湯としての歴史を背景にした「温泉情緒」醸成のための取り組みとして、時季に応じた風鈴や簾、七夕飾り、干し柿棚、門松等の設置を行い、利用者や観光客に季節感を感じてもらうための環境づくりを行った。

また、温泉水を活用した商品開発として取り組んでいる冬場の「温泉柿」の試作製造を引き続き行った。

(シ) さくら湯の池の間を活用し、市民の文化芸術の発表および鑑賞の場として音楽愛好家によるコンサートや、市内のまちづくり団体とともに「やまが温泉落語」等を定期開催した。また、昨年リニューアルした温泉資料室の更なる充実のため「さくら湯内観」の奉納灯籠下げ作品を購入し追加展示を行うとともに、休憩研修室でのレンタルスペース事業も行うなど、豊前街道沿いの賑わいづくりのため、さくら湯西側の活用を積極的に図った。

(ス) さくら湯において、八千代座、山鹿灯籠民芸館、山鹿市立博物館、清浦記念館の入館券提示による割引を継続して実施するとともに、カルチャースポーツセンターや山鹿温泉観光協会と連携し、市内で開催されるスポーツ大会等の誘致や開催支援を行うなど、スポーツコンベンション事業の積極的な推進を図った。

(セ) さくら湯において、温泉まち山鹿の未来を担う子どもたちに、温泉や公衆浴場の素晴らしさを知ってもらい温泉に親しんでもらえるよう、12月2

0日の温泉復活感謝祭の日にちなみ、毎月20日を「子ども入浴無料デー」とする事業を行った。また、さくら湯の”山鹿湯町”オリジナル商品の販売なども行った。

CSC

- (ソ) カルチャースポーツセンタートレーニングジム施設では、マシン更新によるトレーニング内容の充実、フィットネスプログラム新メニュー「ズンバ」、「リフレッシュヨガ」の追加が利用者増および増収につながった。

また運営面では、利用者および職員による施設のアルコール消毒を継続して行い、利用者の安心と安全をサポートした。

- (タ) カルチャースポーツセンターを準本拠地として活動する火の国サラマンダーズおよび、今年度よりプロ化された熊本ブユーストピンディーズの公式戦開催時に、事前告知および運営面でのサポート等を積極的に行ったことが、施設の利用促進・集客増につながった。

- (チ) カルチャースポーツセンターでの飲食関係の利便性向上を図るために行っている飲食業者やキッチンカーの設置が2年目を迎えたことで、施設利用者および観客に事業が浸透してきた。また、設置業者の売上が安定したことで、出店回数が5回増の21回、出店数が5店舗増の37店舗となった。

- (ツ) カルチャースポーツセンターにおいて、「CSCカップ少年野球大会、小学生ハンドボール大会、中学生ソフトテニス大会」を開催する予定であったが、少年野球大会およびソフトテニス大会は、悪天候により延期等も検討したものの、参加団体の日程調整および試合会場の確保が厳しく中止とした。小学生ハンドボール大会は予定通り実施した。同大会は、選手のレベルアップへの取り組みや開催内容には高評価を得ており、今後も継続開催する。

- (テ) カルチャースポーツセンターでは、山鹿温泉観光協会が行うスポーツ大会誘致に協力し、令和8年度熊本県開催予定の大会についての、事前打合せ・顔合わせ等を実施した。また、年間調整会議後の利用状況を踏まえたうえで、テニスコートを中心に宿泊合宿誘致の日程調整等を積極的に行い、今後の施設利用促進のための布石とした。

- (ト) カルチャースポーツセンターでは、火の国サラマンダーズシリーズの運営協力のもと、2025チアダンスフェスタを開催。県内の幼児から一般で構成された5団体173名が演技参加した。観客約500名を集め、参加者からは「コンテスト方式でなかったことで、参加者と会場が一体化して楽しかった。次回も是非参加したい。」との声があり、告知方法等を改善しながら、次回開催に繋げたい。

民芸館

- (ナ) 山鹿灯籠民芸館において、令和6年度の常設展として中村灯籠師作の山鹿灯籠「SL人吉号」及び「球磨川第一橋梁」を展示した。また、企画展としてかつての山鹿温泉鉄道で活躍したレールバス「キハ101」を展示した。

- (ニ) 山鹿灯籠踊り保存会と連携し、大型連休やイベント・大会開催等に併せ入館者へ踊りなどを披露する「おもてなし事業」の実施や、大宮神社との連携による燈籠殿入館者との相互割引の実施、さらに、灯籠師との連携による金灯籠やオリジナル商品の販売の実施など、山鹿灯籠の関係団体との

連携事業を活発に展開した。

また、相乗効果を図るため、山鹿灯籠民芸館のホームページやSNS等を活用した催事情報の発信も併せて行なった。

(ヌ) 山鹿灯籠民芸館において、灯籠師と連携しながら、山鹿灯籠の優れた技術を身近に体験できる制作キットを使用したワークショップを通年で開催した。また、山鹿灯籠振興会が制作した金灯籠の販売のほか、来民うちの販売も行った。

(ネ) 山鹿灯籠民芸館において、国の伝統的工芸品「山鹿灯籠」への理解を深め、その魅力を様々な角度から知っていただくための体験ワークショップ「灯籠紙裏打ち体験」、「灯籠の道まちあるき体験」、「灯籠踊り体験」、「灯籠紙の歴史を学ぶ(楮農家見学会)」などを実施した。

(ノ) 山鹿灯籠民芸館の展示内容の充実を図ることを目的に、昨年度より公社独自で開始した大宮神社の奉納灯籠払下げ作品の買取り事業を継続して実施するとともに、灯籠師や大宮神社と連携し、施設を通して山鹿灯籠の発展に貢献した。なお、今年度は「キハ101」のほか、市からの要請に応じ「SL人吉号」の展示にあわせ「球磨川第一橋梁」を追加購入した。

(ハ) 山鹿灯籠民芸館の入館者の満足度向上を図るため、専用台紙を販売し、重ね押しスタンプラリーを行いながら館内を見学できるスタンプハガキ事業を実施した。スタンプハガキには特典が付いており、ハガキを受け取った相手がその特典を利用できる仕組みにすることで、来館者の連鎖による新規入館者の獲得を図った。

市民交流センター

(ヒ) 山鹿市民交流センターのホワイエ・ロビーを活用し、中島光代灯籠師作の「三角西港」の作品展示や「ふるさと山鹿と菊池川流域の写真展」、博物館講座作品展、熊本県や山鹿市関連コンクール等での入選作品展や、市文化協会作品・花展などを開催し、一年を通じて、施設を活用したさまざまな山鹿市民の交流促進を図った。

さらに施設の備品を活用し、文化ホールでの演奏会の雰囲気体験する「コンサートピアノを弾いてみませんか」を年4回実施し、施設の特性を活かした魅力発信事業を行った。

(フ) こもれび図書館と連携し、山鹿市民交流センター開館10周年記念事業ワークショップ「こもれび龍を完成させよう」「龍にまつわるお話し会」「山鹿郷土かるた競技会」「こもれび龍ぬりえ体験(サイネージで投影)」等を実施した。

(ヘ) 山鹿市民交流センター子ども文化活動支援事業として、市内の小中学校等部活動・クラブに練習場所を提供することで、子どもたちのコンクールや大会への出場支援を行うとともに芸術・文化の次世代育成を図った。

(ホ) 山鹿市民交流センターの文化ホールを活用し、山鹿市合併20周年記念2005年ベストソングCD鑑賞会を開催することで施設の魅力を発信した。また、山鹿の魅力が詰まった映画「骨なし灯籠」上映会を通じて、制作者と共に、市民への作品紹介と鑑賞の場を提供した。

(マ) 山鹿市民交流センターの文化ホール活用事業、山鹿市民交流センター開館10周年記念事業「こどもたちでつくるコンサート」を開催した。同事

業は、市内の小・中・高校生など多くの子どもたちの参加による手作りコンサートとして、子どもたちの記憶に残る記念コンサートとなった。

イ 文化・スポーツ等の情報提供に関する事業

- (ア) 山鹿市名刺録の代替措置としてデジタル名刺録の運用を行った。
- (イ) 公社ホームページ「山鹿ガイド」を活用した各施設の情報発信を行った。
- (ウ) 若手職員によるチャレンジ事業「百華百彩を盛り上げよう!!」を山鹿灯籠浪漫・百華百彩にあわせて開催。竹灯りオブジェ設置と”オリジナルの灯り”を制作するワークショップを行った。

ウ その他の関連事業

- (ア) 観光名刺台紙やオリジナルグッズの制作・販売を行った。
- (イ) 国の伝統的工芸品「山鹿灯籠」の魅力や、灯籠師の優れた技術を知っていただくため、山鹿灯籠をモチーフとした手持ち灯り等の販売を行った。
- (ウ) 山鹿市全域の観光情報等を発信する観光案内所および観光レンタサイクルの充実を図った。

(2) 受託事業

次の各施設の管理運営及び受託業務にあたった。

「指定管理施設」

- ア 八千代座等
- イ 山鹿市さくら湯
- ウ 山鹿市カルチャースポーツセンター
- エ 山鹿灯籠民芸館
- オ 山鹿市民交流センター

「受託業務」

- ア 山鹿灯籠踊り保存会及び観光振興業務
- イ 山鹿市情報発信拠点創り事業
- ウ 山鹿市4町グラウンド整備業務

3 事業収入に関する事項

公社の基本財産30,000,000円の運用利息601円、文化振興福祉向上事業費収入(公益目的事業収入)215,000円、文化・スポーツ等の情報提供に関する事業費収入及びその他の関連事業収入834,120円、「公の施設」管理運営等の指定管理料及び利用料金245,361,647円、雑収入139,216円、特定資産取崩収入1,504,981円を合わせた当期収入合計248,055,565円に、前年度繰越金75,009,019円(基本財産3,000万円含む)を加えた公社事業費総収入額は、323,064,584円であった。

4 事業支出に関する事項

自主事業(文化振興福祉向上事業、文化・スポーツ等の情報提供に関する事業、その他の関連事業)経費1,894,675円(公益目的事業含む)、「公の施設」管理運営等に伴う経費222,104,970円(公益目的事業含む)、管理費(公社事務局運営費)8,698,820円、特定預金支出1,715,000円、租税公課13,642,100円を合わせた公社事業費支出費総額は248,055,565円(内公益目的事業費931,856円)であった。

5 その他の事項

令和6年度当期収支差額は、0円、令和7年度(2025年度)への繰越金は、75,009,019円(基本財産3,000万円含む)である。